

がはいしさん
我拝師山と火上山に挟まれた
まんなかの山

標高438mの中山は、我拝師山と火上山の間にあります。我拝師山と同じく、花こう岩の上に凝灰角礫岩を挟んで讃岐岩質安山岩のつた孤立丘です。

山の名は「多度郡屏風浦善通寺之記」によれば、「五岳とは、香色山・筆ノ山・我拝師山・中山・火上山是也…中山とは、字のことし」とあり、我拝師山と火上山の中央に位置することからついたようです。東は丸亀平野、西は三豊平野を望み、はるか昔、のろしを上げた跡も残っています。山頂では、現世安堵の御利益があり極楽浄土に導くという「阿弥陀如来」の石仏がまつられています。

みかん畑になっている北麓の丘陵は水茎の丘と呼ばれ、そこには西行庵があります。



左から火上山、中山、我拝師山



- 我拝師山の西側。
出釋迦寺から山頂まで徒歩約60分。

古墳や山岳寺院の跡が残る
「のろし」の山

標高408.9mの火上山は、善通寺市と三豊市に接する位置にあり、すぐ北に鳥坂峠、その北に弥谷山と天霧山が続いています。昔から軍事上の重要な位置にあり、ここにのろし合を置いたことから、この名前がついたともいわれています。

北側のゆるい丘、スズメ池の東にある農道を上がった中山と火上山の間の窪地には大窪寺の跡があります。平安時代、仏教が盛んなころに建てられた立派な山岳寺院であったようです。この窪地の北の端には、大窪経塚古墳と呼ばれる前方後円墳があります。瀬戸内海沿岸部の積石塚のなかで最も西に位置していて、大きな竪穴式石室も残されています。山頂には物事を成就させるための知恵を授けてくれる「不空成就如来」の石仏がまつられています。



- 中山の西側。
火上山登山口(西碑殿口)から山頂まで徒歩約50分。